科目名			担当教員	
ケアマネジメント論			高橋　誠一	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
DD4124 DD4196	4	1（注）	RorSR (講義)	3年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　B	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2024 年度入学者までが履修登録できる科目です。
※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2026 年度は開講しません（次回開講は 2027 年度）。
※オンデマンド・スクーリングは 2026 年度も開講予定です。
（注）2015 年度のスクーリングより、8 コマ・スクーリング単位 1 単位に変更されました。
　　科目コード　DD4124　2013 年までのスクーリング受講者（スクーリング単位 2 単位）
　　DD4196　上記以外の方（スクーリング単位 1 単位）

科目の概要

■科目の内容

ケアマネジメントは、1950 年代アメリカで生まれたと言われています。この時期、アメリカでは精神障害者が地域で暮らすようになってきましたが、適切な援助がないためにホームレスになるなど、必ずしも病院や施設より生活の質が向上したとは言えないことが明らかになってきました。その反省のもと、ケアや支援の継続性を確保するために、サービスを調整する役割が重要視されるようになりました。

60 年代に入って、要介護高齢者の在宅支援の仕組みとして、ケアマネジメントが応用されるようになりました。その後、イギリスや多くの国でケアマネジメントが検討され、イギリスでは、全国的にケアマネジメントが導入されることになりました。日本でも、2000 年から始まった介護保険の中でケアマネジメントが位置づけられました。また、障害の分野でもケアマネジメントは実質的に実施されています。さらに、児童虐待などの分野でも応用されています。このように、日本だけではなく世界的にさまざまな分野でケアマネジメントは注目されてきました。

ケアマネジメントは、歴史上アメリカから始まりました。しかし、ケアマネジメントという言葉は使われていませんが、日本の中では、60 年代から保健・医療・福祉の連携の問題として、独自に発展してきています。また日本では、介護保険の中にケアマネジメントが位置づけられましたが、イギリスには介護保険はありません。このように、ケアマネジメントはさまざまな制度の違いにもかかわらず、いろいろな国で受け入れられてきました。

この科目では、ケアマネジメントのこのような広がりをふまえて、ケアマネジメントとはなにか、なぜ必要とされているのか、どのように形作られ、運営されているのかを検討したいと思います。必ずしも、介護保険のケアマネジメントを解説することを目的とはしていませんが、講義の内容は高齢者のケアマネジメントが中心となります。しかし、障害の分野などのケアマネジメントと理論的には共通ですので、それらを理解するためにも役立ちます。

■到達目標

１）ケアマネジメントが必要とされた背景を説明できる。
２）個別支援としてのケアマネジメントを説明できる。
３）ケアマネジメントのシステムを説明できる。
４）ストレングスモデルを説明できる。
５）ケアマネジメントの機能を理解し、実践できるようにする。

６）事例に基づいてアセスメントとケアプランを作成できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 50%

■教科書・参考図書

【教科書】

チャールズ・A・ラップ、リチャード・J・ゴスチャ（著）『ストレングスモデル[第３版]―リカバリー志向の精神保健福祉サービス』金剛出版、2014 年

（スクーリング時の教科書）教科書を参考程度に使用します。

（最近の教科書変更時期）2025 年４月

【参考文献】

１）太田貞司・國光登志子編『対人援助職をめざす人のケアマネジメント Learning 10』みらい、2007 年

２）岩間伸之ほか著『地域を基盤としたソーシャルワーク』中央法規出版、2019 年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

ケアマネジメントというと介護保険のケアマネジメントがよく知られているが、より広く、なぜケアマネジメントが必要とされるようになったのか、ケアマネジメントの目標と焦点とは何か、ケアマネジメントの機能とは何か、基本的な考え方と具体的な実践方法はどのようなものか、どのようにさまざまな分野で活用されているのかを理解する。とくに、ケアマネジメントにおけるストレングスモデルの意義についても、理解を深めたい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ケアマネジメントの基本	ケアマネジメントの定義、目標、歴史、焦点、実践機能
2	アセスメント	ニーズアセスメント、包括的アセスメント
3	ケアプラン	ケアプランの構造と展開過程
4	直接サービス	利用者の主体的判断の尊重、ケアマネジャーの役割
5	間接サービス	仲介、連結、調整、権利擁護、ネットワーク構築、コンサルテーション
6	モニタリング	モニタリングの機能と過程
7	評価	評価の役割と方法
8	質疑応答	補足とまとめ
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料にもとづいて講義を進めます。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験 100%（持込可）。試験では、とくに到達目標記載内容について理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ストレングスパラダイム（第１章　歴史批判有益な概念）	ストレングスパラダイムに向けて 社会的過程と視座の再考 ダメージモデル 環境の欠陥 犠牲者非難 ケアと移行の連続 抑圧	ストレングスモデルが発展した背景を理解する。 前世紀において精神保健を支配してきたパラダイムについて批判的に評価する。 ストレングスという視点を発展させるのに有益であった理念と概念を理解する
2	リカバリーの原則（第 1 章　歴史批判有益な概念）	ストレングスを基礎にした実践に役に立つ概念ーリカバリーの原則	リカバリー志向の実践を非リカバリーの実践と比較検討する
3	ストレングス理論（第２章 ストレングスの基礎理論）	ストレングス理論 生活の場 個人のストレングスー熱望 個人のストレングスー能力 個人のストレングスー自信 個人のストレングスの要素間の相互作用 環境のストレングスー資源 環境のストレングスー社会関係 環境のストレングスー機会 環境のストレングスの要素間の相互作用	理論は現象に関与する要素を特定することによって，その現象を説明しようとする。そのため現象を構成している要素の相互関係を確認する。したがって理論は，まったく重要でないか，あまり重要ではないと判断された生活の一部を除外しようとする。理論というものは，生活そのものではなく，せいぜい「生活の一片」を示すにすぎないことに留意する。
4	ストレングスモデルの目的原則（第３章 ストレングスモデルの目的原則研究結果）	目的 原則 ストレングスモデルの研究 近年のデータ 研究の要約 ストレングスモデルの機能	ストレングスモデルの６原則は，人生の目標を達成しようとしている人々の支援方法の基盤となる運営規則，価値，あるいは基本理念であることを理解する。
5	新しいパートナーシップ関係の本質（第４章 関係とその結び方）	新しいパートナーシップ関係の本質 信頼関係と相互関係を築く方法	クライエントとワーカーの間に協働の基礎となる信頼関係と相互関係を築くことの重要性を理解する。

6	関係づくり （第４章 関係とその結び方）	関係づくり 関係づくりの障壁	関係づくりは，関係のなかで繰り返し執り行われるテーマであり，会うたびごとに行われるとさえ言われるが，初期段階の援助における関係づくりに固有の性質と方法があることに留意する。
7	ストレングスアセスメントの内容（第５章 ストレングスアセスメント）	個人の健康的な部分を展開する現在のアプローチに対する簡潔な批判 ストレングスアセスメント ストレングスアセスメントのツール ストレングスアセスメントー内容 ストレングスアセスメントの内容の重要な構成要素	実践の共通基盤として．個人と環境のストレングスに関する情報を収集することの重要性を理解する
8	ストレングスアセスメントの過程と方法（第５章 ストレングスアセスメント）	ストレングスアセスメント実施過程の重要な構成要素 ストレングスアセスメントと心理社会的アセスメントの相違 ストレングスアセスメントを使うための方法 ストレングスアセスメントの経験	実践の共通基盤として．個人と環境のストレングスに関する情報を収集する過程と方法を理解する
9	個別リカバリー計画 （第６章 個別計画）	達成課題を創造するために目標の重要性 なぜ目標は達成されないのか 個別リカバリー計画 長期目標ー「一番心から願っていること(passion statement)」	クライエントが設定した焦点を当てた．クライエントとワーカーが取り組む共通の予定表を創り出すことの意義を理解する
10	目標設定と目標達成（第６章 個別計画）	目標設定と変化のステージ 個別リカバリー計画の導入 目標達成のための選択肢を増やすこと	クライエントが設定した焦点を当てた．クライエントとワーカーが取り組む共通の予定表を実施する方法を理解する
11	個別リカバリー計画にストレングスアセスメントを用いる （第６章 個別計画）	個別リカバリー計画にストレングスアセスメントを用いる 個別リカバリー計画の使い方を指導する 個別（目標）計画によるクライエントの経験 利用者へのサービス供給を調整する。	クライエントが設定した焦点を当てた．クライエントとワーカーが取り組む共通の予定表にストレングスアセスメントを用いる方法を理解する
12	資源の獲得（第７章 資源の獲得）	地域を地域精神保健に戻す障壁としての精神保健システム 社会資源の領域ー四つのＡ 完璧な生活の場 戦略 関係の重要性 ごくー般的な資源を確認するためのストレングスアセスメントの活用 選択の障壁	ストレングス視点の支援において、本人にとってごくー般的な社会資源の獲得が重要であること理解する
13	資源の獲得における合意形成（第７章 資源の獲得）	選択肢の評価 資源獲得の多様な戦略的方法 合意形成ー効果的な説得の基本的原則 合意形成ー説得のための認知戦略 合意形成ー行動戦略	社会資源の獲得における合意形成の重要性と戦略について理解する

14	ストレングスモデルを支える背景（第８章 ストレングスモデルを支える背景）	効果的な実践のための状況づくり伝統的な組職運営の実践 クライエント中心の組織運営 伝統的な組織 反転した階層組織ー新たな組織運営の比喩 グループスーパービジョン 現場での教育的指導とスーバービジョン	ストレングスモデルを支える組織と組織運営の在り方を理解する
15	ストレングスモデルとシステム環境（第９章 ストレングスモデルのエピローグ）	よく聞かれる質問／異議質問と異議 医療の必要性メデイケイドそしてストレングスモデル	ストレングスモデルとシステム環境の関係性を理解する

■レポート課題

１単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
２単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
３単位め	ストレングス理論では、本人の生活の場に影響を与える個人要因、環境要因にはどのようなものがあると考えているか、説明してください。
４単位め	個別計画を作成するうえで、ストレングスアセスメントをどのように活かすことができるか、説明してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

ケアマネジメントは、対人（個別）援助技術として見ることができます。その視点からは、評価（アセスメント）と援助計画（ケアプラン）が中心的な役割を果たしますが、マネジメントとしてのプロセスを理解することが重要です。一方、システムとして、ケアマネジメントを理解することもできます。この視点からは、ケアマネジメントの制度設計が重要な問題となります。この２つの視点は、ケアマネジメントを理解する上でともに重要であり、個別支援かシステムかといった二者択一の問題ではありません。このことを念頭に置いて、ケアマネジメントを理解してください。

ケアマネジメントがなぜ必要になるのかを考えるには、ケアマネジメントが歴史上在宅支援の必要性から生まれたことを理解する必要があります。施設介護と在宅介護の違いは何でしょうか。いろいろな側面から検討できますが、ケアマネジメントの視点から見てみることが重要です。ケアマネジメントは、それ自身が目的であるというよりは、手段にすぎません。それはマネジメントという言葉が示しているように、何かを達成するための仕組みと考えることができます。それでは、どのような目的、あるいは目標が考えられるのでしょうか。ケアマネジメントは２つの視点から見ることができることを理解していただきたいと書きましたが、実は、それぞれに応じて、利用者指向目標、システム指向目標の２つに大きく分けることができます。これらの目標はときとして競合する場合があります。ケアマネジメントは、実践の中から生まれてきたので、現実に要求されるさまざまな目標をバランスさせる宿命を持っているといえます。特に、（社会）資源の効果的な使用の面から、ケアマネジメントは注目されてきた経緯があります。これらのことを念頭に置いて、課題を考えてください。

【１・２単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【3 単位めアドバイス】

テキストの第２章ストレングスの基礎理論で、個人要因と環境要因のストレングスと抑圧が生活の場と QOL にどのように影響しているか考えてください。

【4 単位めアドバイス】

テキストの第５，６章でストレングスアセスメントが本人と環境のストレングスと本人にとって意義ある目標を明らかにし、その実現に向けて、ケアマネジャーと本人がどのように協力して個別計画を作成するか考えてください。

科目修了試験

■評価基準

内容を理解した上で書かれているかを重視しますが、キーワードが書かれており、適切に使用されているか、を評価します。